

▶▶▶ **ファイブ・コグ実施用ビデオ一式**

28,600円 (税込) + 送料



実施用DVD
マニュアル
テスト用紙見本
結果解説書見本
ファイブ・コグ関連フォーム
(CD-R)

テスト用紙・アンケート用紙 (PDF)
入力フォーム (Excel)
効果検定用フォーム (Excel)
結果報告書 (Word)
結果報告書の解説 (Word)
サポーターの仕事 (PDF)

テスト用紙は 1部132円 (税込) で販売しています。

フォーム類

入力フォーム

採点した得点を入力するためのエクセルのフォームです。入力すると、自動的に偏差値とスクリーニングのための総合評価が計算されます。



報告書作成フォーム

エクセルデータを差し込んで検査報告書を作成するためのワードのフォームが用意されています。



効果検定フォーム

エクセルに1回目と2回目のデータを貼り付けると、自動的に対応のあるT検定の結果が表示されます。



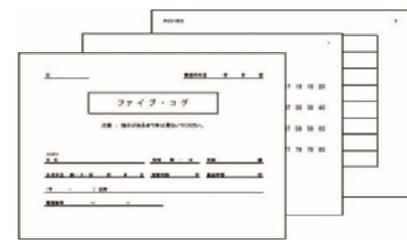
結果報告書の解説ファイル

得点の意味や検査課題の内容、その認知機能を維持するための日常生活の方法を解説した解説書が用意されています。結果の報告書と一緒に対象者に渡します。



テスト用紙印刷用ファイル

指定された色の用紙に印刷して使用することができます。当センターでは 1部 132円 (税込) で販売しています。



ファイブ・コグ

高齢者用集団認知検査

ファイブ・コグ (Five Cognitive Functions の略) は、
高齢者用の集団認知検査として
東京都健康長寿医療センター研究所と
筑波大学精神医学によって開発された検査です。



特長 1

ファイブ・コグは高い認知機能のレベルから、軽度認知障害 (MCI) のレベルまで幅広い測定が可能です。従来の高齢者を対象とした一般成人用認知機能検査では MCI のレベルを判別することが難しく、また、認知症のスクリーニング検査では高いレベルの認知機能の評価が困難です。

特長 2

認知機能は、年齢や教育年数、性別によって大きく影響されます。ファイブ・コグは 65 歳から 84 歳までの 800 人のデータに基づいて、年齢や教育年数、課題によっては性別で調整した偏差値が得られるようになっています。

特長 3

DVD を用いて集団で実施できる検査です。一度に 100 名程度を対象にすることも可能です。このような実施の方法でも信頼性の高いデータが得られます。したがって、検査コストが非常に安く済みます。



ファイブ・コグ

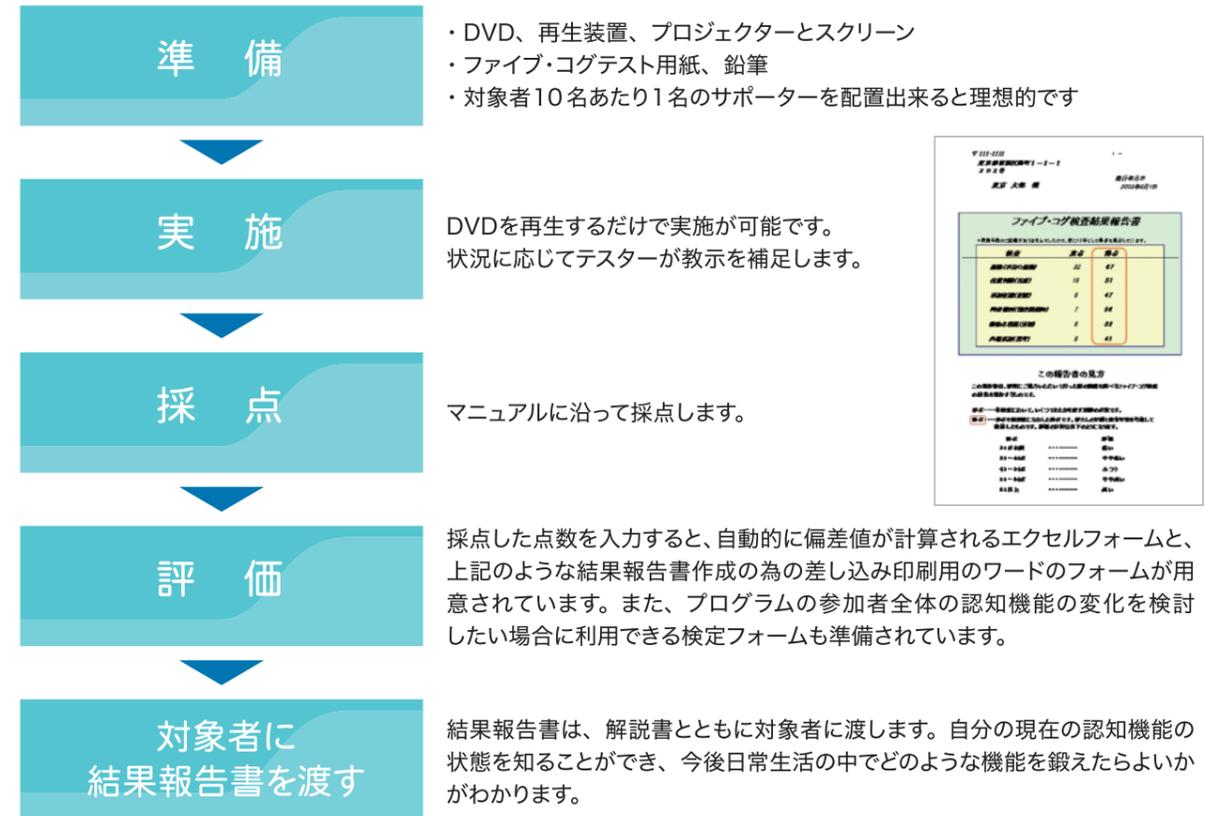
高齢者用集団認知検査

検査の概要

- 用途** 高齢者の認知機能の水準や認知機能の変化を測定する。
例：軽度認知障害のスクリーニングやプログラムの効果評価
- 検査対象** 65歳から85歳未満の高齢者
- 検査内容** 記憶、注意、言語、視空間認知、思考の5つの認知領域と手先の運動機能を測定する
- 信頼性** .706 ~ .851 (再テスト法による)
- 妥当性** .637 ~ .703
(新規に開発した記憶、注意、思考課題の基準妥当性)
- 実施方法** スクリーンやモニターによる映像・音声で刺激や教示を提示する。被験者はテスト用紙に反応を鉛筆で記入する
- 実施可能対象人数** 一度に1名~100名程度
- 実施時間** 約45分
- 評価得点** 年齢、教育年数、性別で調整した偏差値
- 引用文献** 矢富直美「集団認知検査ファイブ・コグ」老年精神医学雑誌、2010年、第21巻、第2号、p215-220
杉山美香ほか「高齢者用集団版認知機能検査ファイブ・コグの信頼性と妥当性の検討」老年精神医学雑誌、2015年、第26巻、第2号、p183-195



検査の流れとツール



検査の内容

<p>運動</p> <p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩</p>	<p>記憶</p> <p>皿洗い アヒル 家事 ダイヤ とんぼ</p>	<p>注意</p> <p>下 中 上 下 上 1 2 3 4</p>	<p>視空間認知</p> <p>これから時計を書いていただきます。まず、時計の枠を書いてください。それに全部の数字を書き込んでください。○時○分を指すように、時計の針を書き込んでください。</p>	<p>言語</p> <p>○○の名前をできるだけたくさん書いてください。</p>	<p>思考</p> <p>ルビー ダイヤ 宝石 雨 晴れ 天気</p>
<p>手先の運動 手先の運動スピードを測る</p> <p>15秒間にできるだけ速く数字を○印で囲む課題です。手先の運動に問題があるために、認知課題ができないのチェックする機能も持っています。運動課題得点が特に低い場合は、運動に関わる脳の障害の可能性があります。</p>	<p>手がかり再生課題 エピソード記憶を測る</p> <p>手がかりとなるカテゴリーと一緒に32個の単語を記憶し、カテゴリーをヒントに覚えた単語を書き出す課題です。認知症になる前の軽度認知障害の段階では、エピソード記憶の機能が低下します。</p>	<p>文字位置照合課題 注意分割機能を測る</p> <p>上中下の文字と文字が書かれた位置が一致するものに○印を付けて、同時に順番に数字を振っていく並行作業の課題です。この課題は注意の切り替えが必要な注意分割課題です。軽度認知障害の段階で特に低下しやすい機能です。</p>	<p>時計描画課題 視空間認知機能を測る</p> <p>時計の文字盤を描き、それに時刻を表すように針を書き込む課題です。アルツハイマー病では、こうした視覚的構成機能が侵されますので、その判別には有効な検査です。軽度認知障害の段階ではそれほど低下しません。</p>	<p>単語想起課題 言語機能を測る</p> <p>2分間にできるだけ多くの単語を書き出す課題です。アルツハイマー病では、適切な言葉を引き出す機能が侵されます。この機能も、軽度認知障害の段階では、比較的低下が少ない機能です。</p>	<p>類似(共通単語)課題 抽象的思考能力を測る</p> <p>例えば、ルビーとダイヤという2つの単語から宝石という上位の概念を抽出する課題です。検査は16問からなっています。この能力も、軽度認知障害の段階で低下しやすい機能です。</p>